

「分かった！」という
言葉がうれしくて
説明にも力が入る

① 高校生が「どこが分からないの？」と尋ねても、つまづいている箇所が分からずに黙り込む中学生もいる。そうした時、一から説明をして不明点を探りながら、根気強くサポートしていった。



②③ 1学級に3~5人の高校生が入り、教室内を回って、手が止まっている中学生に話し掛ける。先輩としてしっかり教えたいのに、英文法を思い出せず、説明の途中で言葉に詰まってしまうことも。「中学生に教えながら、自分自身の弱点も明確になり、自分の勉強になっています」と、参加した生徒は話す。



④ 学習サポーターを行う約1週間前に、土曜授業で使う教材が配布される。生徒たちは皆、事前に教材を読み込み、問題を解いて、指導のシミュレーションを行う。

どう伝えれば、
中学生が分かりやすいのか
その工夫が自身の理解も深めていく

④

⑤ 休み時間には、生徒たちは控え室に集まり、「ここはどうやって教えた?」「こうやったら分かってくれたよ」と、指導の仕方について情報交換。



⑤

⑥ 中学生への学習サポーターの実績を受けて、保小中高連携を行う輪島市立門前東小学校で、高校生4人と高校教師が英語の出前講座を行った。英語で自己紹介をし合うなど、スピーキングを中心に小学生と高校生と一緒に活動した。

1998年度から、連携型中高一貫教育を進めている石川県立門前高校と輪島市立門前中学校。体力テストや講演会、吹奏楽部演奏会、街頭募金のボランティアなど、教師・生徒共に様々な面で連携を推進している。学習面では、授業参観や交流授業など、教師の年齢が近い自分たちだからこそ中学生と一緒に悩み、考えられる

1998年度から、連携型中高一貫教育を進めている石川県立門前高校と輪島市立門前中学校。体力テストや講演会、吹奏楽部演奏会、街頭募金のボランティアなど、教師・生徒共に様々な面で連携を推進している。学習面では、授業参観や交流授業など、教師の年齢が近い自分たちだからこそ中学生と一緒に悩み、考えられる

連携がメインだったが、2014年度、新たな活動として、門前中学校の土曜授業で、門前高校の生徒が中学生の学習支援をする「学習サポーター」を始めた。門前高校の生徒の大半は門前中学校出身。母校で後輩たちの役に立ちたいと、生徒が支援に乗り出した。

ハートを
こがせ!

Vol.05

石川県立門前高校
学習サポーター
1高1中だからこそ
母校の中学校で
後輩たちの学びを支えたい

ハートを
こがせ!

Vol.05

石川県立門前高校

学習サポーター

「教えること」が 学び合いになり 共に成長していく

「分かってほしい」という思いが
試行錯誤を生む

石川県立門前高校の生徒が輪島市立門前中学校の土曜授業に「学習サポーター」として初めて訪れたのは、高校入試を約1か月半後に控えた2015年1月のこと。輪島市門前町にある中学校・高校は両校のみであり、門前高校の生徒の大半が門前中学校の卒業生だ。そうした環境もあって、「母校の役に立ちたい!」と、当時1年生8人、2年生2人が立ち上がった。

「お世話になった中学校の先生に恩返しをしたいねと、クラスメートと話し合って学習サポーターに立候補しました。部活動の後輩の役にも立てると、みんなで意気込んで行きました」(西さん)

土曜授業は1時間50分間で、午前中に3時間分が行われた。3学年共に実施教科は数学と英語で、1学級当たり学習サポーター3〜5人が入った。

実施日の1週間前には、高校の先生を通して担当教科と学年が指示され、授業で使う教材が手渡された。数学は問題演習、英語は自己紹介文を英作するという内容だった。

「事前に問題を解く際は、中学校時代を思い出しながら、中学生がつまずきやすそうな箇所はどこか、どのように指導するかを考えました」(前田さん)

当日、学習サポーターは教室内を回りながら、困っていきそうな中学生に積極的に話し掛けて支援。年齢が近い気軽さもあり、中学生は学習サポーターに分からない点をどんどん質問していく。ところが、中には想定外の箇所ですまずいている中学生もいて、説明に四苦八苦した場面もあった。

「こう言えば分かるだろうと話しても、中学生から良い反応がなくて焦りました。とっさに思い付いたのが、図を描くこと。図を描きながら説明したら、うなずいてくれるようになりました。ほっとすると共にうれしかったです」(山森さん)

教師の
思い

教えることを通して
思考力や表現力が身に付く

米沢裕太

学習サポーターの活動後、生徒からの質問の質に変化が見られました。以前は「分からない」とだけ言っていたのが、活動後は、質問内容が具体的になっていったのです。中学生への指導を通して、伝えたいことをどうアウトプットすればよいのかに気付いたのでしょ。

今後も、生徒には、大学入試や就職試験の面接を始めとして、自分の考えを表現する場面がたくさんあります。その時に求められるのが、伝えたい内容をまず自分が十分に理解し、それを的確に伝えるために工夫する力です。今回の経験がそのような力につながってくれればと思います。



よねざわ ゆうた
教職歴2年。同校に赴任して3年目。
総務課。担当教科は数学。

普段からの助け合いの精神が
発揮された活動

橋元幸弥

現2年生は1学級で、皆、仲が良かったため

休み時間には、学習サポーター同士で情報交換。「勉強が苦手そうな中学生がいたので、次の授業を担当する友人に、『丁寧に教えてあげてね』と伝えました(西さん)と、細かい配慮も欠かさなかった。

立場が変わることのできた気付きが 授業への姿勢や進路意識を変えた

学習サポーターは「分かりやすかった」と中学生に大好評で、1か月後に2回目が行われた。2回目も参加した前田さんは、「普段は授業で教わるばかりでしたが、中学生に教えて分かったことがたくさんあります。例えば、教える内容を自分ができる理解していないと、相手に分かりやすく説明できないですし、分かりやすく表現できるようにするために国語力も必要だと感じました。自分



英語の授業では、学習サポーターが中学生と一緒に英作文を考え、最後に中学生がその成果を発表した。「中学生の目線で一緒に考えてくれたので、生徒の学習効果が高かった」と中学校教師にも好評で、中学校校長から学習サポーターの高校生に感謝状が贈られた。

が頑張ればもっと役に立てるはずと思い、2回目も参加しました」と語る。

そうした生徒の気付きは、授業での姿勢や進路意識にも影響している。「数学では、定理や公式を単に覚えるのではなく、それらがどうやって導き出されるのかも意識して学習するようになりました(山森さん)」、「学習サポーターはやりがいがありました。同時に難しさや責任も感じました。私が目指す管理栄養士には、食育など教える仕事もあるので、自分の将来について改めて考える機会にもなりました(西さん)と、自身の変化を語る。

母校への思いから始まった学習サポーター。「人前に立つのは得意ではなかったけれど、相手が分かってくれれば自分もうれしくて。これからは苦手なことも避けずに、いろいろ挑戦していこうと思いました(前田さん)と、中学生だけでなく、高校生自身の成長にもつながっている。

西 愛実 にし・あいみ

2年生。学習サポーターは、数学と英語を担当。ソフトウェア部。

前田夏希 まえだ・なつき

2年生。学習サポーターは、数学と英語を担当。バレーボール部。

山森陽貴 やまもり・はるき

2年生。学習サポーターは、数学を担当。ロボッ卜部。

か、授業中は生徒同士の教え合いがよく見られますし、定期考査前には自主的に集まって学習会を開いています。そうした普段からの学び合いが、中学生への丁寧な支援につながっていると感じます。

何とか解けるようになってほしいと教える方を工夫するうちに、物事には複数のアプローチの仕方があると気付く生徒がいました。最初は中学生に話し掛けることに戸惑っていたけれども、自分の指導によって理解してもらえ、中学生から「ありがとう」と言われることで、自信を付けた生徒もいます。教えることで、自身も学び、視野を広げること。この活動が生徒の成長につながっていると実感しています。



はしもと・りょうや
就職歴1年。同校に赴任して2年目。教務課。1学年担任。担当教科は数学。

石川県立門前高校

◎1998年度から3年間、文部省(当時)からの指定を受け、輪島市立門前中学校と連携型中高一貫教育の実践研究を推進。2001年度から本格的に連携を進め、現在、体力テスト、講演会などの行事を中高合同で行っている。

◎設立 1948(昭和23)年

◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約40人

◎2015年度入試合格実績(現役のみ計) 国公立大は、金

沢大、都留文科大に2人が合格。私立大は、駒澤大、専修大、

東海大、金沢学院大、北陸大などに延べ13人が合格。短大

専門学校進学25人。就職6人。

◎URL <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~nonzah/>